

合唱団ホームページアドレス <http://www.wiengifu.org>

音楽とは 横への感性なり！

11
月号

2019年11月1日
編集・発行/
ウィーン岐阜合唱団

盛り上げよう!! 飛騨高山千人の第九

ウィーン岐阜合唱団岐阜本部 テノール

(飛騨高山千人の第九実行委員)

杉江 功



●「合唱初心者でも分かりやすく、楽しかったです! 熱気ムンムンでした」

●「熱いご指導をいただきました。時間も回数も限りある中で、熱心にご指導下さいました。ただ、求められるものになかなか応えられず、自分がじれったかったです」

●「平光先生、凄かった! やっぱりあれぐらいアグレッシブじゃないと千人の第九はまとめられないです。でも楽しかった♪」

などとコメントが届いておりますが、平光先生と参加者が一体となった充実した練習の様子が垣間見れました。きっと皆さん、第九初めての方もマエストロ平光のマジックのとりこになられたのでしょうね。

いずれにしても、この熱気の中に、100人を超える我がウィーン岐阜合唱団のメンバーが加われば、鬼に金棒!! 高山の歴史を変えるインパクトのある感動的な第九演奏会が実現すると思います。ただ、高齢者団員の脱落や男声パートの少なさなど、高山側の課題もあるようです。その部分を、ウィーン岐阜合唱団でしっかりカバーできればと思います。それだけウィーン岐阜合唱団に対する高山の皆さんの期待も大きいものがあります。

令和の最初を飾る今年のウィーン岐阜合唱団の第九演奏会のチラシは、まさに「岐阜県をウィーンのごとくに」のコンセプトをモチーフにするデザイン。3年前の高山での交流会から生まれた、飛騨・美濃が一体となった「飛騨高山千人の第九演奏会」は、いつも平光先生がおっしゃる、このコンセプトを実現する価値演奏会です。

ぜひ皆で盛り上げていきましょう! 参加を申し込んでいない方、これからでも、まだ間に合いますよ!!!!

12月15日の「飛騨高山千人の第九」まで、残り2か月を切りました。

先月19日土曜日の夜、高山で初めて平光先生による第九合唱団の指導が行われました。またウィーン岐阜合唱団でも、第九はもとより高山第九の第一ステージで歌う「フィンランディア」の練習も始まり、いよいよ年末の二つの第九演奏会に向けた練習も佳境に入ってきました!

19日の、高山市の練習会場、国府公民館には200人近い団員が集まり、平光先生の熱心なご指導に時間もあっという間に過ぎたようです。

私たちには当たり前となっている平光先生自らのご指導も、本来、プロの指揮者による指導を毎回受けられるなんてことは、そうそうあるものではありません。もちろん、高山のほとんどの皆さんにとっても貴重な経験だったと思います。平光先生の一言ひとこと、また先生の一挙手一投足に注目し、時間が足りないと感じるほど集中した練習となったようです。

練習に参加された方からは、

●「初めて、平光先生の元で練習できて大変充実した時間を過ごせました」

初 心 に か え っ て



イラストは高橋奈緒子様 御母堂様提供

第九の練習が始まり、秋も深まるこの時季になりますと、私は入団した当時を思い出し毎年初心に還ります。

八年前、丁度今頃第九を覚えたい、歌いたいと漠然と思い描いていた折、ウィーン岐阜合唱団のチラシがたまたま手元にあり、ある日勇気を出して事務局の清水さんに連絡いたしました。すると、それは、それは優しいお声で「どうぞ、どうぞ、一度いらして下さいね。お待ちしております……。」と、私は敷居が高いことも忘れ、優しいマリア様に導かれるが如く早速練習会場に訪れました。しかし、その時もはや練習場から第九を高らかに歌い上げる団員さん達の声が響き渡り、私はこのような高貴な音楽を歌えるまでにどれほどの歳月が掛り、困難なことかと恐れをなし躊躇しましたが、偶然にもその日、同年齢で同じ状況の右田さんに出会い、私達はのんびり、ボチボチ仲良くやっていく事で意気投合し、入団する事ができました。ところが、12月に入るや否や清水さんから「そろそろ暗譜してください。12月の演奏会に登壇していただきます。」と、私達は今回はオーディエンスで、登壇なんてとんでもないと懸命に伝えるが「いや、大丈夫です。立つ位置も決まっておりますので、よろしくね……。」と、サラリと言い残し立ち去ら

岐阜本部 アルト高橋 奈緒子

れ、ああ～、今までのあのご慈愛に満ちた清水さんのマリア様は何処に。

しかし、言われればやる素直な性格が仇となり、どうせ暗譜するのは一時の事!! と、覚悟し、第九、ハレルヤ、復興讃歌（平光保作曲、東日本大震災を思い涙する暇もなく）を、通勤車内で外のサイレンの音も聞こえぬ程大音量にし、錆びついた頭をギンギン回転させ、無我夢中で覚えました。その甲斐あって今に至っています。とても、とても感謝しておりますが、

私の悪い癖で適当に歌い易く雰囲気覚え、毎年第九のレッスンが始まると、間違っている、ごまかしている箇所、そして一度摺り込んだ事が修正しにくい頑固な自分に遭遇させられ、一人困惑しています。ですから、人知れずここはそうだったのか等々頷き呟きながら、平光先生と伴先生のご指導を毎年、初心に却って享受しています。また、第九はいつの時代でも色褪せることのない奥深い未知の世界観が広がっていると感じます、私は何度聴いても歌っても魂が揺さぶられ新たな感動に出会うので、気持ちはいつも初心者です。

そんな感動を下さった平光先生、伴先生、ウィーン岐阜合唱団の皆様にもいつも感謝しております。ありがとうございます。

P.S:

私の両親は、私が入団後欠かさずウィーン岐阜合唱団の演奏会に足を運び、第九が聴かないと、年末を迎えられないという程、のめり込んでいましたが、今年は体力に自信がなく来られなくなりました。

今年はそんな両親になお一層響き届くよう心を込めて歌いたいと思います。そんな母の水彩画のスケッチです。下段中央が私だと思います。

ウィーン岐阜合唱団員になって 思 う こ と

岐阜本部 アルト 右田真理子

ウィーン岐阜合唱団に入団してから、早いもので8年になります。第九を歌ってみたいな、と言う軽い気持ちで入団して、音楽の専門知識のない私が、ここまで続くとは自分自身でも驚きです。

それと言うのも、先生方の優しく、厳しく、時にユーモアを交えたご指導のお陰だと感謝しています。でも定期演奏会の課題曲が、知らされるたびに、今回は無理……！と思う私です。毎回の暗譜は、苦い薬を無理矢理飲まされているような感じで、飲みたくない！飲まなければ！の繰り返し繰り返し。

そして定期演奏会が近づく頃には、その薬が効いてくるのです。まさに、良薬は口に苦しですね。

今回の難曲は、「行け我が思いよ、金色の翼にのって」オペラ「ナブッコ」の中で歌われる合唱曲です。オペラと言うと、私が初めてオペラを観劇したのは、中学生の時でした。岐阜市民会館で「カルメン」を観ました。テノール歌手の五十嵐喜芳さんが出演されていました。当時の私は、今まで見たこと

がない、聞いたことがない、生の大人の音楽の世界を見られて、とてもワクワクドキドキ気分だったような気がします。

この年になった今でも、あの時の気分が蘇るってことは、とても嬉しいことです。やっぱり、本物を見ることは、大事だなと思います。とりとめもなく、タラタラと書き連ねました。ここからは、今回の定期演奏会に向けての、抱負です。

「ナブッコ」は虜囚ヘブライ人の合唱で、故郷を想い望郷の念を歌う曲です。なんとか帰りたい、実現したい思い。それを皆で歌う。

定期演奏会まであと2カ月、私もこの歌を、なんとか歌いたい、完成させたい。そして、第九をもっともとうまく歌えるようになりたい！

そんな我が想いを、金色の翼にのせて、合唱団の皆さんと一緒に歌いたいと思います。

“真由ちゃん響室” 発表会のご案内

伴真由子先生の個人レッスンを受けている方の発表会が、下記の通りあります。

ウィーン岐阜合唱団員14名、その他4名が日頃の練習の成果をソロやデュエットで発表します。是非、皆様の温かい拍手の応援をお願いいたします。

尚、当日は真由子先生の歌もあります。お楽しみ下さい！！

記

- 日時:11月30日(土)13:30 開演 (13:15 開場)
- 場所:大垣シューベルトホール

大垣市安井町 3-28 TEL0584-82-6575

11～1 月練習予定

練習時間は 18:45～20:45 です(18:30 までに集合しましょう)

月 日	岐 阜	月 日	大 垣
—	—	11月 1日(金)	大垣市南地区センター
11月 7日(木)	北部コミュニティセンター	11月 8日(金)	中川地区センター
11月 14日(木)	長森コミュニティセンター	11月 15日(金)	大垣市南地区センター
11月 21日(木)	長森コミュニティセンター	11月 22日(金)	大垣市南地区センター
11月 28日(木)	長森コミュニティセンター	11月 29日(金)	大垣市南地区センター
12月 5日(木)	長森コミュニティセンター	12月 6日(金)	大垣市南地区センター
12月 8日(日)	岐阜・大垣強化練習 長森コミュニティセンター14:00～17:00		
12月 12日(木)	長森コミュニティセンター	12月 13日(金)	大垣市南地区センター
12月 15日(日)	飛騨高山千人の第九 本番 飛騨世界生活文化センター (ゲネ 10:00 本番 14:00～16:00)		
12月 19日(木)	岐阜・大垣合同練習 大垣北地区センター18:00～20:00(オケ合わせ)予定		
12月 21日(土)	岐阜・大垣強化練習 長森コミュニティセンター14:00～17:00(最終確認)		
12月 22日(日)	“第九”演奏会本番 長良川国際会議場メインホール(14:00 開演～)		
1月 9日(木)	長森コミュニティセンター	1月 10日(金)	大垣市南地区センター
1月 16日(木)	長森コミュニティセンター	1月 17日(金)	大垣市南地区センター
1月 23日(木)	長森コミュニティセンター	1月 24日(金)	大垣市南地区センター
1月 30日(木)	長森コミュニティセンター	1月 31日(金)	大垣市南地区センター

(11月8日 大垣練習会場 大垣市中川町4丁目150 TEL0584-75-2575)

音楽家の名言(名句辞典より)

「抱かれよ あまたの者よ！ この口づけを全世界に！

兄弟よ、この星空の彼方に 愛する父なる神がおられるに違いない」……シラー(歓喜に寄す)

シラーは、ドイツが生んだ詩人、歴史学者、劇作家であり思想家として、ゲーテとともに「ドイツ古典主義」の代表的な人物である。理想主義そして自由を求める不屈の精神が、その作品の根底に貫かれていると言われている。

青年時代には肉体的自由を、晩年には精神的自由をテーマとした創作活動を展開しているが、彼が求めた「自由」はドイツ国民の精神生活にとてつもなく大きな影響を与えたとして多くの人に知られている。

とくにシラーはベートーヴェンの交響曲第九番の第4楽章の「歓喜の歌」の歌詞を作った人でよく知られている。これが東西ドイツ統合の象徴として歌われたのも、ベートーヴェンの音楽の力だけでなく、シラーの「自由」への讃歌の精神が大きく影響していることは疑いようもない。

この曲は、古くは1964年の東京オリンピックにおける東西ドイツ選手団の入場行進時や、東西冷戦の真只中であった1961年に東ドイツ政府によって建設されたベルリンの壁の崩壊時(1989年)のニュース映像に、さらに1998年の冬季長野オリンピックの開会式での世界同時演奏(小沢征爾指揮)に、この「歓喜の歌」が演奏されていたことは多くの人々の記憶に残っているだろう。

(資料提供 ウィーン岐阜テナー 森田 進さん)

編集部からのお願い

編集部では、団員さんからの原稿を募集しております。内容は、音楽に関することで結構です。

詳しくは、編集委員坪内・白木までお願いいたします。

Tel058-231-4700 fax058-231-4721 mail:Printshiraki@Yahoo.Co.JP